

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100304		
法人名	医療法人 大分朋友会		
事業所名	グループホーム ほうゆう		
所在地	大分市大字下宗方字櫛引258番地		
自己評価作成日	令和4年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail%2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100304-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三差評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F		
訪問調査日	令和4年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>コロナ禍にあり、思うように外出や面会が出来ない現状でオンライン面会は柔軟に対応を行っている。概ね好評であり、リピート利用が実現できている。 外出が出来ない分、施設内でのイベントや行事食に力を入れている。 終末期を満たされたものにするため、家族や本人の意向を随時汲み取り情報共有を行っている。終末を穏やかに満たされて送って頂けるように力を入れており。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>令和3年度は、コロナ感染症対策を徹底する中で、外へ向けての活動が出来なかったと振り返り、利用者と職員との時間を工夫しながらメリハリのある日常を支援しています。利用者の高齢化、身体機能低下によるリハビリや食を通じての楽しみ等、いま出来る最大限のケアに、管理者をリーダーとして、「理念」をモットーに真摯に取り組んでいます。また、家族との面会も困難ないま利用者との絆を更に深め、電話連絡やお便り・広報誌を充実した物になるよう工夫しており、家族から、「写真にある利用者の穏やかな表情に安心している。」と感謝の言葉が聞かれました。また、母体医療機関との連携は、高齢化傾向の利用者や家族及び職員の安心に繋がり、家族への不安軽減に向けた情報提供も信頼として活かされています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき共通理解のもと実践に繋がっている。	事業所が目指す介護のあり方を明示した理念を、玄関やパンフレット等に掲示しています。職員は常に理念を意識して日常介護に取り組んでおり、会議等で理念について振り返り、共有と実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり現在地域との関りが薄れているが、運営推進委員会などにより共通理解を持っている。	コロナ禍により、地域の行事もなくなり、交流の機会も減っている中、隣接する畑で、保育園児が芋掘りを行っており、利用者も一緒に楽しく見守っていました。芋の差し入れや、園児が書いた絵を頂く等交流を図っています。	今後もコロナが長期化する中で地域から孤立することがないように、運営推進会議を通じ、情報収集や自治会への協力、広報誌を利用し、少しずつ交流を増やして行われるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にあり、現在は外部に向けての発信は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、昨年本年通じて一度運営推進会議を開催。他は定期的に書面での開催とし、資料を元にご意見などの返信をいただく事で話し合いに準ずるものとしている。返信内容次第ではサービス向上へと繋げる取り組みを行っている。	コロナの感染状況を見て、昨年末に一度対面開催を行いました。現在はまだ書面開催としています。事業所の近況報告等資料を送付し、意見を聞き、メンバーの質疑応答をまとめ議事録を作成し配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所担当の方にアドバイスを頂きサービス提供の拡充を図っている。	行政からはメール、電話等で情報交換を行っており、研修の動画視聴の案内等があり利用しています。相談やアドバイスを気軽に受けられる協力関係も出来ています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、年に4回以上の会議と年に2回職員全員を対象として勉強会を開催している。勉強会をもとに身体拘束をしないケアの実践につなげている。	法人全体で年間を通じて、身体拘束廃止、虐待防止を含めた研修会を行っており、その内容と弊害を認識し、拘束・虐待を行わないケアの実践に努めています。日頃のケアの中で「言葉かけ」等問題はないか振り返り、意見交換を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、勉強会を身体拘束と同時にしている。虐待防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は権利擁護に関する研修などをを通じ理解を持っている。研修参加の機会があれば積極的に研修参加を勧めている。現在し園が必要な入居者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面で必ず同意を頂き、施設での保管を行っている。説明文を同封し、質疑があれば速やかな回答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時や電話連絡の際に意見を伺うようにしている。	家族との面会は窓超して行っており、メール・電話や請求書送付時のお便りで近況を報告し、2ヶ月毎に広報誌「ほうゆう」を作成し、ホールでの様子や日々の活動をお知らせしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例の会議を持ち、率直な意見交換を行っている。反映できることは速やかに反映して事業所運営に繋げている。	管理者は日々のケアの中で、職員とのコミュニケーションを図り、職員から出された意見は、会議で検討し運営に反映させています。職員の休憩スペース(個室)の要望が実現しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	突発的トラブルなどがあれば特別給与という形式で労働対価を支払っている。また、毎月の定例会議で意見の吸い上げを行い、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で職員研修を年間計画を立て行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にあり、現在は外部交流は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際し面談や情報収集を行い生活歴等を把握している。入居後も本人の要望を聞き不安にならないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族からの要望等を伺い、不安の解消に努めている。入居後も定期的な連絡で情報交換や現状を伝え信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望や思いを確認している。また、入居前に利用していた機関と連絡を行い情報提供をしてもらうなど、必要な支援を選定出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の高齢化と認知症の進行に伴い、出来ることが限られてきた。その中で、職員と入居者が一緒に作業などを行い、入居者の居場所を提供し生きがいを持ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にあり家族と利用者が繋がる時間に限りが出来ている。オンライン面会等を活用し家族の時間をもってもらえるよう支援している。また、普段の生活の様子を近況報告や広報誌でお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	オンライン面会の随時の実施と窓越し面会などで、入居者と家族や知人との関係維持に支援を行っている。	家族の訪問(窓越し面会)が中心で、コロナ禍の中で馴染みの人や場所との関係継続は支援出来ない状況ではありますが、家族の協力を得て知人や親類の方との面会も検討しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性を把握し、必要に応じて職員が仲介を行っている。レクリエーションはその枠を取り払い交流出来る場になるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから積極的に交流を持つことは行っていないが、問い合わせなどには親身になって対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の思いや意向を汲み取り、出来る限り本人らしく生活出来るよう努めている。また、ケア記録に本人の言葉や感情の変化を記し、職員間で共有している。	勤務年数の長い職員が多いので、利用者との信頼関係が構築され、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、日々のケアに反映させています。意思表示が難しい利用者には、その表情や仕草から思いや意向を汲み取り、ケア記録に記載し、情報の共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族に生活歴を確認し記録している。また、新しく得た情報は随時追加。職員間で共有し支援に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態や言動など日々の様子をケース記録や申し送りノートに記入し情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者は本人家族の意向を第一としたうえで計画作成を行い、施設生活上での課題など現状に即した介護計画を立案している。また、担当者会議を定期的に持ち、共通意識を持つようにしている。	担当者会議を開催し、ADL低下によるケア方法や利用者・家族の意見・要望等も踏まえ、現状に即した介護計画を作成しています。モニタリングにより達成状況や満足度が記入される書式を作成し、ケア継続の可否を見極めていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に付随し日々の何気ない気づきなどを記録の残している。そこで情報の共有を行い改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスとして満足度を第一に考え、入居者と家族の即したサービス展開を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にありボランティアなどの地域交流を控えているが、書面での交流を継続して地域からの理解を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全てが同一敷地内のクリニックを主治医としており、24時間オンコール対応をしている。	敷地内に隣接するクリニックが主治医となっています。24時間対応でき、利用者の急変時には、直ぐに医療との連携が取れます。利用者の変化は、その都度家族へ報告しています。「安心してお任せできる」との声もあり適切な医療を受けられる体制が構築されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	両ユニットに看護師を配置しており、普段と様子が違ったり気になることがあれば相談している。訪問診療の際は必ず看護師が対応し、情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、綿密な情報共有を行いグループホームへの退院を目標に病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時やその他随時家族の意向を伺い、希望に寄り添った方針づくりを行っている。また、協力医療機関と連携を取り、家族の意向実現に向け支援を行っている。	入所時に、終末期について施設として最大限出来る事の説明を行い、家族の意向を伺っています。コロナ禍の中での看取りを体験しており、家族・医療機関との密な連携を取りながら、家族の思いを大切に尊厳のある支援への取り組みが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応出来るようにしている。看護職員や主治医である併設診療所へ直接連絡がとれる体勢になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。台風水害対策は法人全体として取り組みを行っている。また、災害避難受け入れを出来るように法人として準備を行っている。	年間計画を作成し、避難訓練を実施されています。今後は法人と連携して水害対策や災害の際、地域の方々を受け入れられる体制作りの準備に力を入れています。	目標達成計画に上げていた、年間計画書や目で見て分かり易い報告書作り・地域住民の方の受け入れ体制準備について、法人とともに取り組まれており今後の取り組みに期待が持てます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を通じ尊厳とプライバシーの保護に努めている。また、管理者も職員の言動に気を配り指導を行っている。	法人全体で研修に取り組まれています。内容は尊厳やプライバシー保護・個人情報や接遇については、新人職員だけではなく施設職員全員で力を入れた取り組みが行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望の汲み取りは認知症状の進行もあり大変困難であるが、なるべく寄り添い意向を汲み取るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の日課はあるが、入居者の状態に応じて柔軟に対応を変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに配慮しつつ、髭や髪などの身だしなみを整えメリハリのある生活支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活リハの一環として食器洗いやテーブル拭きなどを一緒に行っている。また、週2回の食事作りでは旬の食材や季節に合ったメニューを取り入れ、食事を楽しみにももらえるようにしている。	基本は法人の厨房より食事が届きますが、週2回 旬の食材で手作りの食事を作っています。利用者も楽しみにされており、五感を刺激され生活リハビリにも積極的に取り組まれ、楽しい食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を確保しつつ、嗜好も考慮し食を楽しんで栄養確保が出来るよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自分でできる方には物品準備と声かけをし、出来ない方に対しては職員が介助を行っている。義歯のある方には夕食後ポリドント消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々人の体格やリズムを検討し、物品の手配や支援の時間を細かに決定し個別の支援を行っている。	日中はリハビリパンツを使用し、排泄パターンを参考にまめな声掛けを行い、トイレでの排泄に取り組まれています。尿取りパットは排泄量を観察しながら、一人ひとり、その方に合ったパットを使用し、安心して快適に過ごしやすいように取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の性状を記録し、かかりつけ医との相談もしつつ、適切な水分量と運動を目標に支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	プライバシーを遵守しつつ、入浴を楽しんで気持ちよく行っていただけのように柔軟に対応している。	重度化していく利用者が、気持ちよく安全に入浴出来るとの思いで、今年から機械浴を導入されています。入浴時は1対1になることもあり、同性介助を基本にしています。色々な話ができる場でもあるので、ゆっくり寛いで頂けるよう支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムが整う様努めている。今までの生活習慣や体調に合わせて休む時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報の共有を職員間で行っており、看護職員管理の下確実な服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みを見出し、余暇活動の充足を図っている。また、楽しみの提案を行い日常生活に刺激を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にあり外出は控えている。	コロナ禍であり、遠くの外出はしていませんが施設周辺には大きな桜の木や足湯もあり、玄関には、四季折々の花が大きな壺にたくさん飾られています。それを毎回楽しみにしながら、庭にあるベンチに腰掛け心地よい時間を過ごされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として施設で管理させて頂いている。必要に応じて家族へ了解を得たのち使用している。入居者管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はすぐに取り次ぐことができる、手紙は届いたら本人に渡し居室で保管している。手紙のやり取りや電話、オンライン面会で支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り入れることで居心地の良い空間作りをしている。また、季節に応じ壁面や花などを飾り季節感を演出している。	居間には広い窓があり、そこから入る光が居室全体を明るくしており、心地よく過ごせる空間となっています。窓からは外の景色が一望でき、季節感を感じる事が出来ます。壁に飾る壁画は、毎回利用者と職員の合作で、四季折々の壁画の作成に意欲的に取り組まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	パブリックスペースでの居場所は固定していないが、徐々に固定されてくる。入居者同士がトラブルなく穏やかに過ごせるよう配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に可能な範囲内で備品を持ち込めることを伝えている。使い慣れたものや家族との写真、仏壇を置き馴染みある空間作りをしている。	入所時、自宅で使い慣れた備品を持ち込まれています。誕生日・お正月・クリスマス等の行事には、職員の手作りカードをプレゼントされ部屋にセンス良く飾られ、家族もとても喜ばれており、目で見て楽しめる居室作りに取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり等完備し、残存機能を活かせる環境づくりを行っている。		